

平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	プロジェクト3 (Project3)		授業コード	L120301
担当教員名	杉浦 嘉雄、池畑 義人、吉村 充功、高見 大介		科目ナンバリングコード	L31203
配当学年	3	開講期	通年	
必修・選択区分	コース選択必修 環境地域(まち)コース 環境地域(社会)コース 選択 全コース(2016年度以前) 建築設計コース 建築工学コース 住居・インテリアコース	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	関心のある学生なら誰でも歓迎します。			
受講心得	この分野の知識・技術を積極的に学ぶには、仲間とともに、実際に体験することが最も有効な学びの手段です。自然豊かな地域をフィールドにした多彩な環境創生プログラムに積極的に参加して下さい。			
教科書	教科書の指定なし(ただし、毎回ワークシート等を配布。「参考文献」参照。)			
参考文献及び指定図書	『～シリーズ田園回帰・第1巻～田園回帰1%戦略(藤山浩著、農文協、22000円)』『里山資本主義(藻谷 浩介・NHK広島取材班著、KADOKAWA(角川oneテーマ21)、843円)』			
関連科目	プロジェクト1 プロジェクト2 森里海連環学と地球的課題 自然生態論 環境計画論			

授業の目的	本講座では、①環境に配慮した「環境地域創生」の方法論や課題を学ぶこと、②そこで学んだ「環境地域創生」に関する学びを、教育実践フィールドにおいて実際に体験し、その体感を意識的に身につけること、③受講生自らが環境地域創生活動を学び参画することを到達目標とします。 この目標を達成するために、次に示す「授業内容」を計画しています。
授業の概要	目的①については、本学の教室内で実践します。②については、本学と提携している豊後大野市の里山環境がある過疎高齢の地域、あるいは、同じく本学と提携している一般財団法人セブン-イレブン記念財団の傘下組織「九重ふるさと自然学校」の野外フィールドなどで、受講生全員が学ぶ「全体プログラム」と、希望者が学ぶ「選択プログラム」を実践します。さらに、③については、主に後期において受講生自らが進んで、行政や民間団体の主催事業に関する情報を収集し、その事業に積極的に参画する「自主プログラム」を実践してもらいます。これらのプログラムを段階別実践することで、各目的が達成できる構成となっています。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：オリエンテーション ①授業の目的、②授業の概要、③環境地域創生活動の基礎知識や意義について解説する。その上で、質疑応答や準備のためのワークショップを行う。	次週につながる予習(図書館やHPIによる事前検索作業)
第2週：全体プログラムについて ①教育実践フィールド(例えば、豊後大野市にある中土師地区・長谷川地区の過疎高齢地、九重町の「九重ふるさと自然学校」など)について、②教育実践フィールドで実施する「全体プログラム」計画を学生自身が作成するためのフィールド環境や背景について解説する。その上で、質疑応答や準備のためのワークショップを行う。	次週につながる予習(図書館やHPIによる事前検索作業)
第3週：全体プログラムの目的、計画作成 教育実践フィールドにとって実際に必要な「環境地域創生活動」を事前に調べて、その後、学生たちが「全体プログラム」の作成を行う。そのための実践方法の概要も学生が計画する。	次週につながる予習(図書館やHPIによる事前検索作業)
第4週：選択プログラムについて	

豊後大野市や「九重ふるさと自然学校」が主催する「選択プログラム」の詳細について解説する。その上で、質疑応答や準備のためのワークショップを行う。		次週につながる予習(図書館やHPによる事前検索作業)
第5週：全体プログラム<環境地域創生活動の実践>【7-1】 1泊2日の環境地域創生活動に関する実質10時間以上の全体プログラム(2日間で7コマ分)を実施する。指導者は、豊後大野市の地域キーパーソン、九重ふるさと自然学校のスタッフ、および本学教員など。		演習による体験学習
第6週：全体プログラム<環境地域創生活動の実践>【7-2】		演習による体験学習
第7週：全体プログラム<環境地域創生活動の実践>【7-3】		演習による体験学習 演習による体験学習
第8週：全体プログラム<環境地域創生活動の実践>【7-4】		演習による体験学習 演習による体験学習
第9週：全体プログラム<環境地域創生活動の実践>【7-5】		演習による体験学習 演習による体験学習
第10週：全体プログラム<環境地域創生活動の実践>【7-6】		演習による体験学習 演習による体験学習
第11週：全体プログラム<環境地域創生活動の実践>【7-7】		演習による体験学習 演習による体験学習
第12週：全体プログラム<環境地域創生活動>のふりかえり 全体プログラムのふりかえりためのワークショップを行う。		
第13週：選択プログラム<環境地域創生活動の実践>【3-1】 1日(日帰り)の環境地域創生活動に関する実質5時間以上の選択プログラム(3コマ分)を実施する。指導者は、豊後大野市の地域キーパーソン、九重ふるさと自然学校のスタッフ、および本学教員など。		演習による体験学習
第14週：選択プログラム<環境地域創生活動の実践>【3-2】		演習による体験学習 演習による体験学習
第15週：選択プログラム<環境地域創生活動の実践>【3-3】		演習による体験学習
第16週：選択プログラム<環境地域創生活動>のふりかえり 選択プログラムのふりかえりためのワークショップを行う。		
※第17週～29週まで：選択プログラムおよび自主プログラムの実践とふりかえり 当大学のCOC事業、および担当教員の関わる環境地域創生事業の		演習による体験学習 および自主的体験学習
第30週：プロジェクト3に関するふりかえりとまとめ ふりかえりと分かち合いをする。まとめと「総括レポート」の解説。		総括レポートの提出
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考	教育実践フィールドについては、地元ととの綿密な相談の上決定するので、年度ごとに替わる可能性があります。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標		
【関心・意欲・態度】	①環境保全・再生活動、環境経済活動などの「環境地域創生活動」に興味・関心を持つ。	
【知識・理解】	②自然環境や生態系を理解し、環境保全に関する知識を身につける。 ③生物多様性および生態系の基本を理解する。 ④環境保全と持続可能な利活用を両立する環境地域創生(持続可能な地域づくり)を理解する。	

【技能・表現・コミュニケーション】	⑤環境保全や再生に関する基本的な技術を身につける。 ⑥生物多様性や生態系の理解に必要な技術の基本を習得する。 ⑦環境地域創生(持続可能な地域づくり)に必要な技術の基本を習得する。
【思考・判断・創造】	⑧実践した生物多様性の保全・再生について、生態学の基礎的な知識を使って説明ができる。 ⑨実践したビオトープの保全や再生について、生態学の基礎的な知識を使って説明ができる。 ⑩環境地域創生(持続可能な地域づくり)について、基礎的な知識を使って説明ができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			20点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			20点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		40点		
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	「全体プログラムのレポート」、「選択プログラムのレポート」および「自主プログラムのレポート」が、自分の実践を客観的かつ分かりやすく伝えていること。また、その意義も明確に述べていること。
発表・その他(無形成果)	「全体プログラムのレポート」、「選択プログラムのレポート」および「自主プログラムのレポート」の学びの姿勢や発言が、現地キーパーソンやスタッフの客観的な立場からも良く感じ取ることができること。